

令和7年度 東京都立保谷高等学校 学校経営報告

1 過去3年の数値動向と今年度の数値目標及び実績

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 目 標 実 績
教員相互の授業参観 延べ回数	▼382回	△543回	▼420回	250回 ▼192回
授業満足度 (学校評価アンケート)	△79.8%	▼76.9%	△78.2%	70.0% △70.2%
英検準2級以上合格者数	▼101名	▼87名	△383名	395名 ▼330名
夏期冬期講習受講者数 〈延べ〉	▼3384名	▼3023名	△3319名	3350名 ▼2408名
生徒の1日平均学習時間 (平日 9月)	1年 ▼48分 2年 △53分	1年 ▼30分 2年 △36分	1年▼30分 2年▼27分	1年 45分 ▼35分 2年 60分 ▼40分
外部模試(1月実施) 偏差値	1年 △46.4 2年文 ▼45.9 2年理 △43.7	1年 △47.3 2年文 △46.1 2年理 ▼43.5	1年 ▼47.0 2年文 △46.9 2年理 △45.0	1年 48.0 ▼44.3 2年文 48.0 ▼47.9 2年理 46.0 △46.7
大学入試センター試験 (共通テスト) 英語偏差値	△52.7	▼47.1	▼42.9	45.0 △(W)45.4 △(L)46.8
現役進路決定率	△94.8%	▼88.0%	△93.6%	95.0% ▼94.0%
4年制大学 現役合格者数	△610名	▼544名	▼497名	530名 ▼514名
国公立大学 現役合格者数	△4名	▼1名	△8名	6名 ▼5名
私立大学現役合格者数 (早慶上智理科)	△7名	▼2名	▼3名	3名 ▼1名
私立大学現役合格者数 (GMARCH)	△36名	▼35名	▼22名	25名 ▼23名
私立大学現役合格者数 (成成獨国武明学)	△57名	▼53名	▼30名	40名 △43名
私立大学現役合格者数 (日東駒専)	▼83名	△97名	▼73名	100名 ▼80名
年間遅刻延べ回数	▲4235回	▲4423回	▲5291回	4500回 △4426回
特別支援教育に関する 委員会の開催回数	△28回	▼14回	△18回	15回 △16回

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度目標
統一体力テスト 体力合計平均値	△55.9	△56.8	▼49.9	52.0 △53.9
部活動加入率	▼92.0%	△95.0%	▼90.0%	90.0% △96.9%
学校満足度（生徒） （学校評価アンケート設 問「自分を高めてく れる学校か」）	△64.2%	▼55.1%	△59.1%	70.0% △70.2%
学校満足度（保護者） （アンケート設問「子ど もは保谷高校に通っ て成長したか」）	▼79.6%	▼61.3%	△84.1%	90.0% ▼85.3%
体育祭、文化祭来場者数	△1739名	△4232名	△5120名	5000名 ▼4097名
学校説明会参加者数 （本校実施分）	△1674名 （人数制限実 施）	△1678名	△1817名	1900名 △2696名
中学校進学対策委員会 志願倍率	△1.29倍	△1.51倍	▼1.23倍	1.40倍 ▼1.35倍
入学選抜応募倍率 （推薦・一次募集）	推薦△3.32 倍 前期△1.43 倍	推薦▼3.16 倍 前期△1.70 倍	推薦3.30倍 ▼2.92倍 前期1.50倍 ▼1.40倍	推薦3.30倍 ▼2.28倍 一次1.50倍 ▼1.47倍
ホームページ更新回数	△348回	△772回	▼447回	500回 △525回
一般需用費 センター執行率	△45.8%	△49.5%	▼46.8%	50.0% △51.0%

2 今年度の主な取組

(ア) 個別最適な学びと協働的な学び

【個別最適な学び】 オンライン学習・オンデマンド教材の活用、個々の習熟度に沿った学び、自習および家庭学習時間の確保、課題設定型の探究的な学び 等

【協働的な学び】 ペア学習、グループ学習、教えあい、話し合い、ディベートなどの対話型授業、チーム・団体・地域・学校行事による活動、オンラインによる交流 等

(イ) 主体的・対話的な深い学び

【主体的な学び】 生徒自らの課題設定とPDCA(計画・実践・チェック・改善)サイクルの実施、学習に対する内発的動機付け、目標の明確化と自覚化、自習環境の整備 等

【対話的な学び】 意見交換・話し合い・協働・議論、生徒同士、生徒と教師、生徒と地域住民、異学年との交流 等

(ウ) デジタルとリアル最適な組み合わせ

【デジタル】 インターネット上の情報のリサーチ、プレゼンテーションの作成、AI技術の活用、動画視聴、課題の配信提出 等

【リアル】 相手の表情を読み取りながらの交流、言葉の抑揚を感じながらのコミュニケーション、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能、実技・体験を重視した活動 等

(エ) グローバル人材育成

【英語力の育成】 英語4技能の向上、JET及びALTの活用 TGG英語体験 等

【GE-NET EE】 オンライン英会話、語学検定試験の活用 等

【学校間交流推進校】 海外修学旅行、留学生との交流、異文化理解 国連大学との連携 等

(オ) その他

学習習慣の確立、基礎学力の定着、生徒が活躍する授業、ICT機器の積極的活用、教員相互の授業参観、指導教諭による模範授業・指名制授業研究への参加、生徒による授業評価 等

2 進路指導

(ア) 組織的・計画的な進学指導体制

【進学指導研究校】模試受験準備と振り返り指導、教科主任会・教科会の充実、進学に関する校内研修の実施、進学指導研究校拠点校としての他校との連携、共通テスト解説講習の実施、模試分析会の公開 等

(イ) キャリア教育の推進

進路情報提供、個別指導の充実、探究活動のより一層の進展、著名人による文化講演 等

(ウ) その他

長期休業中の講習実施、共通テスト解説講習の実施、自習室・自習スペースの設置 等

3 生活指導

(ア) 基本的な生活習慣・規範意識の定着

服装・身だしなみ指導、遅刻指導、挨拶指導、SNS使用指導、学習と部活動の両立 他者理解 等

(イ) 個性や強み、積極性の伸長とリーダーの育成

生徒主体による学校行事・委員会活動、部活動活性化、東京都教育委員会主催の行事への生徒派遣等

(ウ) 人権尊重の精神

多様性・共生社会の尊重、他人への思いやり涵養、いじめ・体罰防止の取組、特別支援教育・インクルーシブ教育の実施 等

(エ) その他

校内教育相談体制の確立、生徒個別面談の実施、スクールカウンセラー活用、個別指導計画の作成、保護者との情報の共有、「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」の遵守 等

4 広報活動

(ア) 組織的な募集対策

学校説明会、授業公開の充実、PR事業への協力、塾主催による学校説明会への参加、中学校訪問・塾訪問の実施、ホームページの充実、部活動体験の実施、生徒の積極的活用、効果的な演出、生徒の活動状況掲載、グラウンドデザインの活用 等

(イ) 保護者への確実な情報提供

保護者コミュニケーションツール(Classi)と紙媒体によるハイブリッド型周知 等

5 安全・健康

(ア) 心身の健康維持・増進

面談・SC・保護者との連携等による生命に関わる事故の未然防止、エピペン・嘔吐等対応教職員研修、熱中症と感染症の予防、校内美化の推進、通学時の安全指導、自転車ヘルメット着用率の向上、薬物乱用防止等セーフティ教室、教育相談センターと連携、いじめ対応サポーター活用 等

(イ) 防災・防犯

避難訓練・防災訓練実施、スクールサポーターとの連携、盗撮・ネット犯罪防止指導 等

(ウ) その他

生徒の体力向上 「TOKYOACTIVE PLAN for students」を参考に、健康的な生活スタイル確立、スポーツライフの推進 等

6 学校組織

(ア) 学校経営と地域連携強化

服務事故防止研修、コンプライアンス徹底、職員室と経営企画室連携、経営目標に基づく企画室参画、組織的PDCAサイクル徹底、企画調整会議が柱の学校運営、学校運営連絡協議会、防災教育推進委員会、地域行事への参加、人材育成と働き方改革の推進、PTA及びむらさき会との連携 等

(イ) 予算編成執行と施設設備の改善

計画的な予算執行と管理、生徒の教育活動を優先した予算編成、汚損箇所修復 等

(ウ) その他

教職員の心身の健康維持・増進、教職員アウトリーチ型相談事業実施 等

3 今年度の成果と課題

1 学習指導

【成果】

本年度の学習指導では、生徒の主体的な学びを促すため、個人での考察、ペアやグループでの話し合い、発表の時間を意図的に組み込み、主体的で対話的な深い学びを展開した。知識構成型ジグソー法やグループディベート、歴史におけるレプリカ活用や寸劇、音楽の歌詞を素材とした国語の授業、ICT を活用した共通テスト対策、ゲームを用いた数学・英語の授業など、教科の特性を生かした多様な実践が試みられた。また、海外修学旅行に向けた台湾料理の実習や、生徒自身が練習内容を考える体育実技の取り組み、「毎日パソコン入力コンクール」において 98.4%が3級以上に合格したことも大きな成果であった。

授業における ICT 活用率は 80%を超え、Teams やロイロノートを用いた課題提出が定着した。学級閉鎖時にはオンライン授業で対応し、学びの継続を図った。さらに、西東京市退職校長会を招いた公開授業を実施し、長期休業中には延べ 2,408 名が参加した講座を展開するなど、学習機会の充実に努めた。GENET - EE 指定校としてオンライン英会話を実施し、JET・ALT と連携したコミュニケーション中心の授業も推進した。また、「多様な学習ニーズ」への対応をシステム化し、誰一人取り残さない指導も進めた。国際交流では、高校生海外派遣研修に初めて参加し 4 名がエジプトに派遣されたほか、2 学年で台湾を訪問し、桃園市立陽明高級中等学校との交流や国連大学訪問を実施した。

【課題】

授業満足度は 77.5%と前年より微減し、家庭学習時間が 1 時間に満たない状況が続いている点が学力定着の課題として残った。自習室利用のさらなる促進が必要である。また、指名制授業研究と指導教諭による模範授業の参加者数が目標に届かず、特に若手教員の他校派遣による授業研究の機会を増やす必要がある。授業における AI 活用も不十分であり、教育現場への導入方法について研究が求められる。さらに、「多様な学習ニーズ」の運用を通じて新たな課題が明らかになったため、規程改訂に向けた検討が必要となった。

2 進路指導

【成果】

進学指導研究校として、昨年度までの従来の個別分析方式を改め、教科別の協働分析へ転換した。これにより情報共有が迅速化し、大量資料を扱わずとも生徒の弱点を把握できるようになった。弱点は授業に還元され生徒の学力向上に寄与した。探究活動では、1 学年の自分探究と社会探究、2 学年の世界探究、3 学年の未来探究を体系化し、生徒の興味関心を反映した学びを実現した。成果発表会を通じて表現力やコミュニケーション力が向上、東京都教育委員会主催の TIPS フォーラムにも生徒 2 名が参加するなど、外部発信の機会も広がった。

進路指導部は、模試分析会、進路ガイダンス、入試説明会、大学模擬授業、保護者説明会など 20 回以上の行事を中心となって実施し、また全校体制で生徒面談を行った。説明会では対面とオンラインを併用するハイブリッド形式を採用し、参加者の増加につながった。

【課題】

年内入試志望者が増加する一方、一般入試を志望する生徒が減少傾向にあることが課題である。一般入試は依然として難関大学への主要ルートであるものの、リスクが高いため、生徒には多様な受験方法を提示し、最適な進路選択ができるよう支援を継続する必要がある。また、探究学習は形になりつつあるものの、誰もが一定の質で指導できる段階には至っていないため、学びの深化と指導体制の充実が求められる。探究については TIPS フォーラムを鑑み、次年度、学年別発表から全校発表へと飛躍したい。

3 生活指導

【成果】

生活指導では、服装や頭髪、化粧などに関する禁止事項に極端な違反や反復的な違反を行う生徒はほとんど見られなかった。いじめ案件や特別指導案件は数件発生したが、学年・生活指導部・管理職・いじめ対策委員会・保護者が迅速に連携し対応した。継続的な登校指導によって遅刻者は約 32 名まで減少し、行事における生徒主体の運営が浸透したことで、自主的に行動する生徒が増えた。特に合唱祭では、生徒自治による主体的な運営が確立された。特別支援委員会は年間 15 回以上開催され、SC や養護教諭、学年と情報共有し、必要に応じて外部機関とも連携した。田無特別支援学校との交流では、事前学習を取り入れ、インクルーシヴ教育の推進につながった。

【課題】

SNS をめぐるトラブルが依然として発生している点が課題である。文字情報が誤解を生む可能性について、生徒への継続的な指導が必要である。また、特に 1 年生において、人間関係の不安定さから異なる考えを排斥するなど、関係を自ら壊すケースが見られた。年齢が低いほど発生率が高いため、日常的で丁寧な指導が求められる。

4 広報活動

【成果】

広報活動は本年度もっとも成功した活動であり、学校の魅力発信や生徒の活用、部活動体験の充実により、多様な取り組みが効果的に進んだ。熱中症対策を兼ねたポロシャツ・ハーフパンツの導入は都立学校でも先行例となり得る決定であり、スクールランチもいち早く導入して利便性を高めた。文化祭ではキッチンカーを導入し、混雑を緩和するとともに会場の魅力向上にもつながった。学校説明会では吹奏楽部や生徒会の生徒を積極的に活用し、来校者に学校の雰囲気伝えた。都立と私立の違いや都教委の支援策も提示して特色を明確にし、新規事業として実施した部活動体験「保谷カーニバル」には 387 名の中学生が参加した。これらの取り組みにより、一般入試では 1.47 倍という高倍率を保つことができた。Classi による保護者通知も好評であった。

【課題】

私立無償化の影響により都立学校全体の応募倍率が減少しており、広報のみで倍率向上を図ることは難しい状況にある。さらに、本校では教務部が広報を兼務しており、教務主任の負担が大きいことから、総務部の新設などを通じて業務分散を図る必要がある。

5 安全・健康

【成果】

安全・健康面では、担任、養護教諭、生活指導部、特別支援委員会、スクールカウンセラー、保護者の連携を基盤とし、コンディションレポートやいじめアンケートの活用によって、生命に関わ

る事故は0件であった。外部機関とも連携して怪我や病気、事故に対応し、熱中症対策としてシャワーミストや大型扇風機の設置、体育祭でのエアコン活用、WBGTを基にした活動制限、水分補給の徹底、ポロシャツ・ハーフパンツの導入など多方面から対策を講じた。校内美化も徹底され一定の清潔さが保たれ、体育授業の計画的設定や運動部の活発な活動が生徒の体力維持につながった。体力テストでは全学年が都平均を上回り、特に2年男子57.2・女子54.9、3年男子56.1・女子53.2という良好な結果が得られた。

【課題】

課題としては、2026年4月の道路交通法改正に伴い、自転車の交通ルールが厳格化される点が挙げられる。携帯電話使用や車道通行などの違反は罰金対象となり、ヘルメットの着用義務は努力義務であるものの着用率は低い。登下校中の自転車事故も少なくないため、早期の安全教育が必要である。また、熱中症は将来に影響する重篤な症状を引き起こす可能性があるため、強い危機意識を持って継続的に対策を講じる必要がある。

6 学校組織

【成果】

学校組織の運営においては、企画調整会議を中心に分掌・学年間の情報共有が密に行われ、必要に応じてメール連絡を併用し、円滑な学校運営を実現した。分掌主任・学年主任を中心とした協力体制により組織的な業務遂行が進み、学校運営連絡協議会、PTA、むらさき会など外部からの意見も客観的な学校運営に役立った。PTAにおいては学校オリジナルタオルを制作し、文化祭でのオリジナルタオルの販売は広報活動にも寄与している。経営企画室は迅速かつ正確に業務を遂行し、生徒・職員の活動や施設管理に大きく貢献した。教職員アウトリーチ型相談事業やワークライフバランスの推進によって職場環境は良好に保たれ、メンタル不調による休職者はゼロであった。西東京市との連携により、各種ボランティア活動や住吉小学校への生徒派遣、地域中学生の部活動体験など地域貢献の幅も広がった。

【課題】

分掌が3つ（教務・生活・進路）に限られているため業務が肥大化し、主任の負担が大きいう課題が残った。国際探究部と総務部の新設を検討したものの、調整不足により実施は次年度以降の課題となった。また、週二日の7時間授業について、生徒・教員双方の負担軽減と学校運営の効率化の観点から、削減や7時間45分授業への移行など改善策を検討したい。